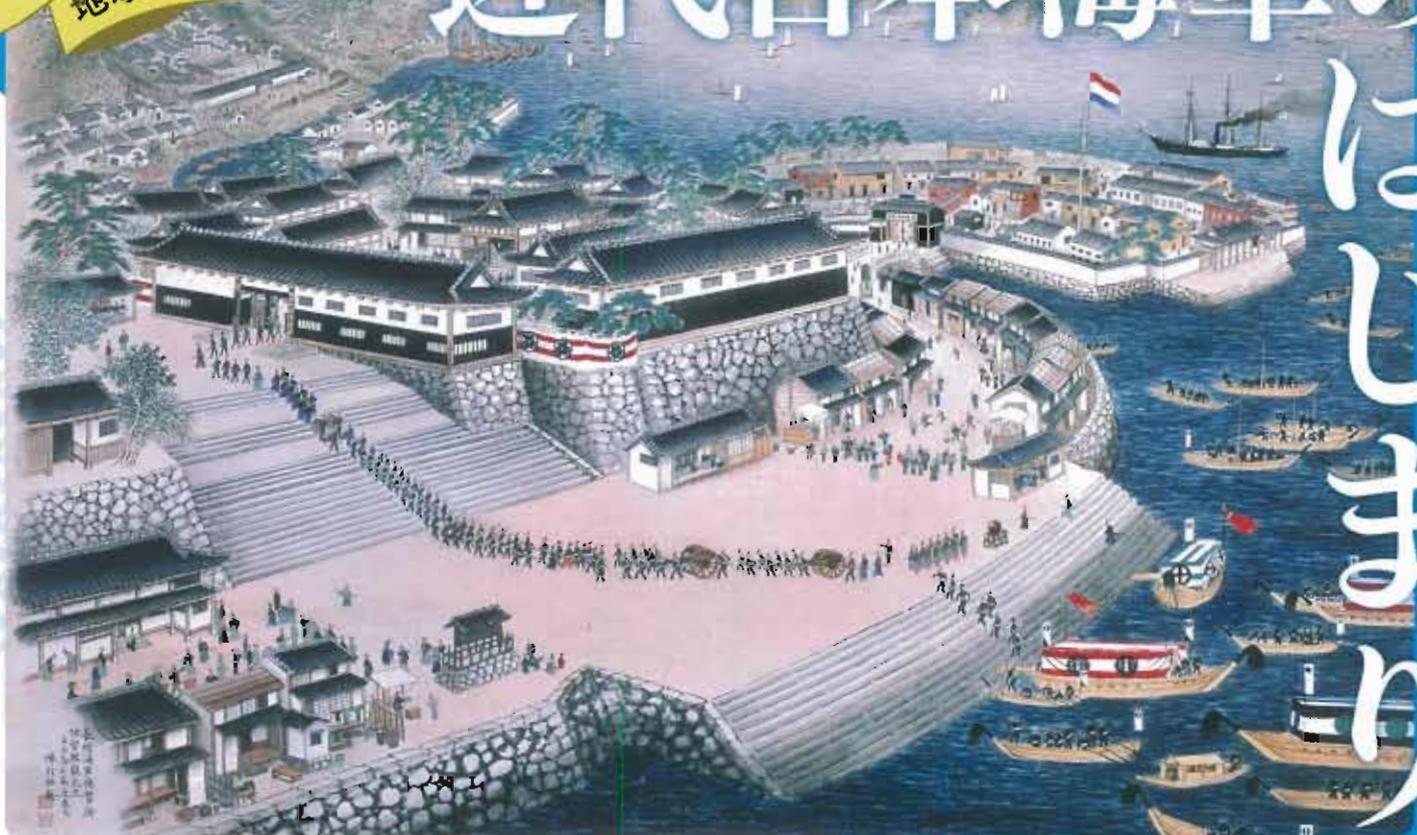


第15回

地域学シンポジウム

近代日本海軍の

はじまり



長崎海軍伝習所絵図(公益財団法人郷土振興会所蔵)

◆ 幕府海軍13年間の意義

金澤 裕之

防衛大学校
防衛学教育学群 教授

◆ 幕府軍艦 開陽

小峰 彩椰

北海道檜山郡江差町教育委員会
社会教育課 地域文化係 学芸員

◆ 幕府海軍と佐賀藩海軍

坂本 卓也

佐賀大学地域学歴史文化研究センター
講師(研究機関研究員)

講師



【佐賀藩】佐野常民
(国立国会図書館「近代日本人の肖像」)



【幕府】榎本武揚
(国立国会図書館「近代日本人の肖像」)

佐賀藩と幕府の挑戦



【佐賀藩】中牟田倉之助
(『佐賀藩海軍史』)



【佐賀藩】日進丸
(『佐賀藩海軍史』)



【幕府】勝海舟
(国立国会図書館「近代日本人の肖像」)



【幕府】開陽丸

日時
令和8年

3月14日(土)

時間 / 13:00~17:00 (12:30開場)

会場 / 佐賀大学本庄キャンパス
教養教育大講義室

聴講無料

自動車での入構

1時間無料

その後は1時間毎に
100円加算されます

主催

・佐賀大学地域学歴史文化研究センター
・低平地研究会歴史・文化専門部会

お問合せ

佐賀大学地域学歴史文化研究センター

〒840-8502 佐賀市本庄町1 TEL/FAX 0952-28-8378



日本の近代海軍建設は、嘉永6(1853)年のペリー来航を契機とし、安政2(1855)年のスンビン号(観光丸)廻航と長崎海軍伝習の開始に端を発します。この伝習には幕臣のみならず佐賀藩からも多くの家臣が参加し、最新の海軍技術の習得に情熱を注ぎました。

佐賀藩士らは幕臣とともに研鑽を重ね、幕府に次いで蒸気軍艦を保有するなど、日本の海軍技術の発展に大きな足跡を残します。幕末には幕府と佐賀藩が協力して蒸気船の自力建造を実現し、近代海軍の礎を築きました。

さらに近年では、戊辰戦争期に北海道江差町沖で座礁・沈没した幕府軍艦・開陽丸について、水中調査が進められており、当時の海軍技術を知る手がかりが得られています。

今年度は、佐賀藩海軍の拠点であった三重津海軍所跡を含む「明治日本の産業革命遺産」が、ユネスコ世界文化遺産に登録されてから10周年を迎える節目の年です。この機会に、幕府と佐賀藩が果たした歴史的役割とともに、開陽丸調査をはじめとする現在の研究成果にも目を向け、近代海軍史の歩みを改めて振り返ります。



開陽丸遺跡の水中調査(江差町教育委員会提供)

講師三人の
視点で読み解く
日本近代海軍

事前
予約制

いただいた予約情報は、本シンポジウムへのご参加にかかわること以外の目的では使用いたしません。

ウェブフォーム(スマートフォン・パソコン・タブレット等)での申込み

右の二次元コードまたは下記URLよりお申込みください。

<https://forms.office.com/r/n6YCWpuFpK>

※1回の入力で1名のみお申込みいただけます。

※講演会終了までは、応募時のメールアドレスを変更しないでください。



電話・FAXでの申込み

下記の佐賀大学地域学歴史文化研究センターの番号へお申し込みください。

●電話の場合

平日10~12、13~15時にお願いします。

●FAXの場合

「3/14 参加予約」と書き、

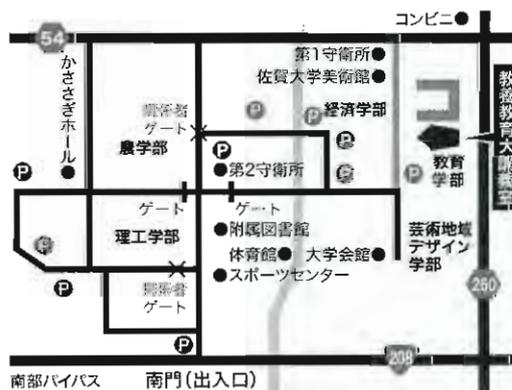
①氏名、②お電話番号をご記載ください。

TEL/FAX **0952-28-8378**

お申し込み期限:3月12日(木)

会場

佐賀大学本庄キャンパス教養教育大講義室
(佐賀県佐賀市本庄町1)



※お車の方は、南門から入り、図書館北のゲートをお通り下さい。